

ハインリッヒ・シュリーマン著「シュリーマン旅行記 清国・日本」を読む

もし文明ということばが物質文明を指すなら日本人はきわめて文明化されていると答えられるだろう。なぜなら日本人は、工芸品において蒸気機関を使わずに達することのできる最高の完成度に達しているからである。それに教育はヨーロッパの文明国家以上にも行き渡っている。シナを含めてアジアの他の国では女たちが完全な無知の中に放置されているのに対して、日本では男も女もみな仮名(かな)と漢字で読み書きができる。

だが、文明ということばが次のことばを意味するならば、すなわち心の最も高邁(こうまい)な憧憬(しょうけい)と知性の最も高貴な理解力をかきたてるために、また迷信を打破し、寛容(かんよう)の精神を植えつけるために、宗教 - キリスト教徒が理解しているような意味での宗教の中にある最も重要なことを広め、定着させることを意味するならば、確かに、日本人は少しも文明化されていないと言わざるを得ない。なぜなら、崇高な美徳の実践 - 人はそれを文明の高尚な現れとみなしたがるのだが - その実践を促す高貴な感情が開化するのを妨げている強力な要因がある。さらに他にも、民衆の精神的な憧憬を最小限に押さえているに違いない理由がある。

それは第一に、民衆の自由な活力を妨げ、むしろ抹殺(まさつ)する封建体制の抑圧的な傾向があげられる。…… P.167 ~ 168

ハインリッヒ・シュリーマン著 石井和子訳

「シュリーマン旅行記 清国・日本」講談社学術文庫 1998年4月18日刊

- 2006年8月15日記 -